

## 第 8 章 社会連携・社会貢献

### 第 1 節 社会との連携・協力に関する方針を定めているか

#### 【現状説明】

「京都女子大学のグランドビジョン」(7)「“地域・社会とともに発展する大学”を目指して、これまで以上に本学の教育・研究力を地域・社会に発信し、その勉学意欲に応えられる開かれた大学にしよう」を具現化すべく、教育研究活動を行っている。

これまで地域とは特段取り決めはせず、地域の中で活動を実施してきたが、平成 20 (2008) 年 2 月 26 日付で大学が所在する京都市東山区役所と「地域連携・協力に関する協定書」を取り交わし、包括的な連携活動を実施することとした。本協定は、大学と東山区がもつ人材や知識、情報などの資源を活用して相互に協力することを目的とし、具体的には、①まちづくりの推進に関すること、②教育、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承と振興に関すること、③地域産業の振興に関すること、④人材の育成に関すること等をテーマに掲げ活動を実施している。

京都市東山区は、日本の都市部で有数の高齢者比率が高い地域であり、高齢社会に対して大学が、どのような取組みができるのかといったことも重要なテーマとなる。例えば、昼間、高齢者だけが残る地域の中で実施される防災訓練に対して、現代社会学部のゼミや地域の住民でもある寮の学生たちが参加し、高齢者との交流も実施している。また、東山区は急な坂道の多い地域でもあり、高齢者だけで生活を送る世帯も少なくない。この状況に対しては、家政学部生活福祉学科が東山区社会福祉協議会との連携を図り、平成 21 (2009) 年の試験的活動を踏まえ、平成 22 (2010) 年度より正式な授業の一環として、学生が高齢者の買い物支援活動を 1 年間を通して実施する活動を開始した。毎週、高齢者より買い物希望を聞き、高齢者と一緒に行き物に出かけたり、外出ができない高齢者の場合は、学生が買い物を代行し、自宅に届けることを行ったりしている。その際に、会話を通じて交流を深めることはいうまでもない。

京都女子大学栄養クリニックおよび家政学部食物栄養学科においては、地域の高齢者の骨密度等を測定し、個別に栄養指導、食事メニューの紹介を行っている。また、高齢者へのアプローチに対して、地域の子育て支援活動も実施している。

発達教育学部児童学科においては、地域の幼稚園、保育園、児童館に出向き、人形劇や絵本の読み聞かせを行ったり、毎月 2 回、大学構内で子育て支援活動を実施したりしている。地域からの親子の参加者も回を重ねるごとに増加している。

地域の行事には、クラブサークルへの参加依頼が多く、積極的に参加している。東山区役所との包括協定締結後、大学への窓口が区役所の中に設置されたため、地域からの要望がスムーズにいくようになり、参加要請が急増してきている。地域と区役所と大学の三者が協力して活動を行うこととなった。

大学近隣にある小学校、中学校には、教育ボランティアとして学生が授業補助、放課後の活動等、積極的に参加しており、各学校から高い評価をいただいている。

地域の街づくりについては、東山区役所が企画した都市計画委員会にも学生が委員として選出され、10 年後の東山区の街づくりに積極的に参加している。

以上、現状の活動は、地域と特色である高齢社会へ、地域、役所、そして大学の 3 者の連携活動として先行的な取組みが実施されている。

#### 【根拠資料】

資料 9 8 東山区との連携〔平成 20 (2008) 年度・平成 21 (2009) 年度〕

## 第1節 社会との連携・協力に関する方針を定めているか

資料99 守口市教育委員会との連携〔平成21（2009）年度〕

## 第2節 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか

### 【現状説明】

広く社会への還元として実施されているものに、春と秋に大きく分けて年2回実施される公開講座がある。主に学科・専攻を中心にした企画がなされており、学科・専攻の特色を生かした講座が開設され、主に一般社会人、学生を対象とし、幅広い年齢層の参加者を得ている。また、毎年1月上旬には、学外のコンサートホールにおいて、発達教育学部教育学科音楽教育学専攻の教員が中心となり、ニューイヤークンサートを実施している。全国より応募者があり、毎年抽選を行い、約3,000名の希望者を無料で招待している〔（平成22（2010）年1月実施分については2回公演を行い招待者も6,300名となった）〕。

平成20（2008）年7月に開設された京都女子大学栄養クリニックにおいては、栄養の実践を通じた地域住民の健康増進を目指し、子育てから高齢者に至る各ライフステージの食生活の支援となる活動を実施している。学内においては、定期的な料理教室や、発達教育学部児童学科と協力をして地域の親子に対して、学内において子育て支援活動を実施している。学外においても、様々なイベントから招待があり骨密度を測定し、その結果に基づく栄養指導・相談を実施している。毎回、測定希望者が列を作って診断を受けている。

大学院発達教育学研究科心理学専攻（臨床心理学）の臨床心理実習施設として附置された「こころの相談室」においては、臨床心理士の資格を持った大学教員の指導のもと、専門相談員や大学院生が一般の人々を対象に「心理相談」や「子育て教室」を行っている。特に教育機関にある相談施設として、子育てに悩むクライアントの相談があることも、特徴の一つである。

官公庁や企業等から、教員への委員委嘱や指導者への依頼もあり、研究の成果を踏まえ広く社会に貢献している。また、講演依頼についても、本学の講義に支障がない日程で調整をとり、赴いている。

学外機関からの依頼に基づき行う受託研究については、家政学部を中心に外部からの資金の委託を受けて研究を展開し、研究成果を還元しているところである。

研究成果の公表としては、出版経費の補助を行い、京都女子大学研究叢刊を発行している。また、学科および学会からの紀要についても、大学経費で発行を行い、研究成果を社会に公開する場を設けている。

### 【根拠資料】

資料100 京都女子大学公開講座一覧〔平成18（2006）年度・平成19（2007）年度・平成20（2008）年度・平成21（2009）年度〕

資料101 ニューイヤークンサート〔平成18（2006）年度～平成21（2009）年度〕

資料102 兼職・兼務依頼状況〔平成18（2006）年度～平成21（2009）年度〕

資料103 委託研究状況〔平成18（2006）年度～平成20（2008）年度〕及び受託研究状況〔平成21（2009）年度〕

資料104 研究叢刊一覧〔平成18（2006）年度～平成21（2009）年度〕

資料105 学術雑誌一覧〔平成18（2006）年度～平成21（2009）年度〕